

## 看護学生の災害ボランティア活動の実態

キーワード：災害、ボランティア活動、看護学生

○金子奈緒子<sup>1)</sup>、中村悦子<sup>2)</sup>

済生会新潟第二病院<sup>1)</sup> 新潟青陵大学<sup>2)</sup>

### I 目的

2011年3月11日に東日本大震災が発生し、莫大な被害をもたらした。新潟県にも76カ所の避難所が設置され、4589人もの被災者が避難した(4月15日現在)。それに伴い、県内でもボランティアの募集や募金活動など支援活動が開始された。

本研究は、災害ボランティアにおける看護学生の活動の実際と参加することの不安について明らかに、災害ボランティア活動推進に活かすことを目的とする。

### II 方法

調査期間は2011年6月～7月。調査対象は、A大学学生250人。調査方法は、質問紙による集合調査で、質問項目毎に「はい」「いいえ」の選択形式の回答とした。調査内容は①災害ボランティア活動状況(4項目)②参加前の不安の有無とその内容(4項目)③参加しての学び(自由記述)④参加しなかった学生の理由(8項目)。分析方法は、「はい」の数を単純集計し、割合を算出した。自由記述については内容の類似性をカテゴリー化した。倫理的配慮については、研究の趣旨を説明し、研究目的以外には使用しないこと、個人が特定されないこと、調査終了後には破棄することを口頭で説明した。調査の参加は自由意志とし、回答の提出をもって同意とみなした。

### III 結果

アンケート回収数は225人(回収率は90.0%)であった。

1. 対象の属性 1学年81人、2学年78人、4学年66人であった。女性204人、男性21人、平均年齢は19.6歳(18歳～32歳)であった。

2. 東日本大震災に関わる災害ボランティアの参加人数は22人(9.8%)で、1学年3人、2学年8人、4学年11人であった。参加動機は「被災者の力になりたい」20人、「将来的に自分の力になる」15人、「友達に誘われた」10人、「参加した人の話を聞き興味をもった」8人、「自分が災害や避難所生活を経験したから」6人、「参加依頼があった」2人であった。

3. 活動の実際について、参加したボランティア支援団体は、市町村は7人、大学は10人、その他6人であった。活動内容は「子供の遊び相手」12件、「募金の呼びかけ」6件、「食事の準備・配膳」3件、「避難所受付」「部屋掃除」「炊き出し」「物資支給」「チャリティーフリーマーケット」「募金」「献血」は各

1件であった。参加日数は1日16人、2～3日5人、4～6日1人であった。交通費は1000円未満21人、1000～3000円1人であった。

4. 参加前の不安について、不安があったのは5人であった。不安の内容は「自分にできるのか」3件、「逆に邪魔になるのでは」3件、「看護学生として何か求められるかもしれない」1件、「被災者とのように話をしたらよいかわからない」3件であった。

5. 災害ボランティアに参加しての学びについて、自由記述は19コードで、「被災者とのふれあい」「協力者の力」「参加意義の高まり」の3カテゴリーが抽出できた。

6. 参加しなかった学生は203人(90.2%)であった。その理由について、「逆に邪魔になるのでは」124人、「忙しくて時間がない」117人、「自分でできるか不安」110人「どのように行動すればよいのかわからない」100人、「申し込み方法がわからない」91人、「被災者とのように話をしたらよいのかわからない」69人、「看護学生として何か求められるかもしれない」56人、「参加自体面倒」23人であった。

### IV 考察

看護学生の参加は22人と少なかったが、何らかの支援団体に所属し、多くは「被災者の力になりたい」と活動していた。活動内容は「子供の遊び相手」が一番多かった。ボランティア参加に対して不安があったと答えたのは22人中5人のみで、「自分にできるのか」、「逆に邪魔になるのでは」と自信のなさを伺わせた。参加しなかった学生の理由においても、「逆に邪魔になるのでは」や「自分にできるか不安」、「どのように行動すればよいのかわからない」「申し込み方法がわからない」など自信のなさや参加のための行動のとり方がわからない学生が約半数いた。

参加者の学びからは「子供たちから勉強を教えて」「抱っこやおんぶを求められた」など被災した子供とのふれあい体験や「多くの方の支援があった」「少しでも力になれた」「団結力と達成感」など貢献感とともに多くの人が集まれば大きな支援の力となること、参加することの意義について学んでいた。

### V 結論

参加学生の活動は「子供の遊び相手」が一番多く、「協力者の力」の大きさについて学んでいた。ボランティア活動の推進には参加意義や活動内容、手続き方法についてアピールすることが重要である。